

## 第 6 学 年 国 語 科 指 導 案

1組	児 童	男子16名	女14名	計30名
	指導者	三浦 多恵子		
2組	児 童	男子16名	女15名	計31名
	指導者	佐藤 朋広		

1 単元名 ものの見方や説明の仕方を知り、絵の評論文を書こう（光村6年）

2 教材名 『鳥獣戯画』を読む  
この絵、わたしはこう見る

3 単元について

(1) 児童について

第5学年及び6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」ことである。「書くこと」の目標は、「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる」ことである。

児童はこれまで、説明文において構成と要旨をつかむことを学習してきた。その際に、筆者の書きぶりについても感想をもつ学習を経験している。また、意見文では、自分の体験や読書と結びつけ、考えを書くことを経験してきた。新しく学習する文章形式の際には、モデル作文や形式を示すことでそれらを手掛かりに安心して書くことができる実態である。ものの見方については、社会で絵を見て歴史の時代背景を読むことや、図工の鑑賞で絵から感じたことを話す活動を体験しているが、特に伝えるという相手意識をもって行っている児童は少ない。

そこで本単元では、児童のものの見方を広げ、それを相手に伝える工夫を身につけさせるために、教材から筆者の見方、感じ方、さらに読み手に伝える表現の仕方を学習し、それらをいかして評論文を書くことを単元を通した言語活動とする。

(2) 指導にあたって

「つかむ」段階では、はじめに、児童に絵を見ての感想を書く活動を設定する。このときの観点は、どんな場面か、どこを見てどう思ったかである。次に、教材文の実況風の書き出し段落を読ませ、気付きを交流する。ここでは、臨場感のある書き出しに気付かせ、筆者の表現の工夫について関心をもつことを期待したい。また、単元の最後には、別の絵に関して評論文を書くことを告げ、学習の目的意識をもたせるとともに、筆者が最終的に述べたい絵の価値のために絵をどのように読み表現を工夫して説明しているかを確認したい。

「見通す」段階では、教材文全体から表現の工夫を読む活動を設定し、表現の工夫を個々に見つけさせ、交流し、分類する。書き出しや体言止め、評価の言葉、相手意識や見せ方等が特徴的な工夫である。工夫に着目することで筆者の絵の見方も知ることができると考える。その後、表現の工夫をいかした指導者作成のモデル評論文を提示する。このモデルは、最終的に児童に書かせる形で、3段落構成（「書き出し」、「絵から想像したこと」、「絵を描いた人の思い」）である。モデル文を検討する際に、どの部分に工夫がいかされているかを確認したい。

「深める」段階では、「見通す」で分類した表現の工夫の効果を考える活動を設定する。このときに、モデル作文は同一の内容で敬体や常体の二つを用意し、文体の効果を考え、筆者の述べたいこの絵巻のすばらしさが表現の工夫によって伝わってくるか確認したい。

ここまで教材文全体を大きく読むことを行った後、くわしく絵を見ていく。ポーズや線、表情に着目し、物語を想像して表現を工夫している点を見つける活動を設定する。また、筆者の見方、感じ方を参考に実際に自分で観点を決め、感じたことをこれまで学習した表現の工夫をいかして書くという単元を通した言語活動につなげていく。

「いかす」段階では、示された絵から選択し、読み取ったこと、感じたことを文章にする活動を設定する。学習したものの見方や感じ方、読者に伝えるための工夫をいかしながら、読者に「なるほど」と思わせるように表現を工夫し、表現した文章を発表し合うことによって、友達のものを見方や感じ方、読者に伝えるための工夫を味わわせたい。

### (3) 教材について

「『鳥獣戯画』を読む」は『鳥獣戯画』の解説と解釈、評価が述べられた評論文の特徴を持つ尾括型の文章構成である。タイトルの「読む」とは、絵を読み解く、絵の解釈をする、絵から類推し意味付けていくことである。読んだことを文章表現では、序論で、体言止めを活用した実況風の書き出し、「話題提示」や「本論」での投げかけや話しかけなどのような語りかける表現、絵を分割させてアニメの原理を説明するなど読者を引き付ける特徴を持つ。また、表情、筆さばき、時間の流れなど評価の内容が次々と出され、評価の言葉も多様である。絵と文章を照らし合わせながら読んでいくと漫画やアニメの祖であること、「本論後半」では、絵巻物の評価が、「結論」では人類の宝であることが理解できる。歴史的価値や世界的価値を筆者のものの見方や考え方に触れることによって感じ取ることができる教材である。また、「この絵、わたしはこう見る」は、学習したものの見方や感じ方、読者に伝えるための工夫をいかしながら、表現することができる。

以上のことから考え、これらの教材は本単元のねらいに迫るために適した教材と考える。

## 4 単元の目標

### 【関心・意欲・態度】

◎文章の内容に興味をもち、筆者のものの見方や表現の工夫を理解しながら読もうとすることができる。

### 【書くこと】

○絵から考えたことなどから書くことを決め、全体を見通して事柄を整理することができる。

◎絵から想像したことなどを表現の工夫をして書くことができる。

◎書いたものを読み合い、表現の仕方に着目して助言し合うことができる。

### 【読むこと】

◎筆者のものの見方や感じ方を読むとともに、それを読者に伝えるための表現の工夫を読むことができる。

### 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

○語感や言葉の使われ方を理解することができる。

5 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容に興味をもち、筆者のものの見方や表現の工夫を理解しながら読もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵から考えたことなどから書くことを決め、全体を見通して事柄を整理している。 【ア】</li> <li>絵から想像したことなどを表現の工夫をして書いている。 【ウ】</li> <li>書いたものを読み合い、表現の仕方に着目して助言し合っている。 【カ】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者のものの見方や感じ方を読むとともに、それを読者に伝えるための表現の工夫を読んでいる。 【ウ】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語感や言葉の使われ方を理解している。 【イ(カ)】</li> </ul>

6 単元を通した言語活動

言語活動	絵についての評論文を書く。
目的	友達に絵から読み取ったことを伝える。
相手	6年生の友達
様式	評論文 400字程度 3段落構成（「書き出し」，「絵から想像したこと」，「絵を描いた人の思い」）

7 単元計画（10時間扱い）

過程	時	主な学習活動	学習内容	評価規準
		★単元を通した言語活動につなげる書く ☆ペア学習・グループ学習		
つかむ	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>【目標】</b> 絵をはじめに見た自分の感じ方と教材文を比べて読み、筆者のものの見方や表現に関心をもつことができる。                     </div> ☆①絵を見てペアで感想を言い合う。 ★②絵を見て感想を書く。 ③教材文を読み感想をもつ。  ④題名について考え、筆者について知る。	<input type="checkbox"/> 絵からどんな場面であることが分かるかを話し合い、書く。  <input type="checkbox"/> 書き出しから筆者のものの見方や感じ方、表現の仕方について関心をもつ。 <input type="checkbox"/> タイトルから読むということを知り、学習することを知る。 <input type="checkbox"/> 単元の最後に絵を読んで表現する事の意欲をもつ。	<b>【関】</b> 筆者のものの見方や感じ方、表現の仕方に関心をもって読もうとしている。（ノート）

見 通 す	2 ・ 3 前 半	<p><b>【目標】 『鳥獣戯画』を読み、表現の工夫を見つけることができる。</b></p> <p>①まとめの筆者の考えを読み、読みのめあてをもつ。 ②教材文全体を読み、表現の工夫を見つけ、印をつける。</p> <p>☆③ペアや全体で交流、分類する。</p> <p>④モデル評論文を読む。</p>	<p>□まとめの筆者の考えを読む。鳥獣戯画の価値を知る。それを伝えるために筆者がどんな表現の工夫をしているかを見つける目的をもつ。</p> <p>□書き出し、体言止め、擬人化、評価の言葉、会話、見せ方、相手意識などに分類する。</p> <p>□工夫がどこに使われているかを知る。最終的に書く形を知る。</p>	<p><b>【読む】</b> 表現の工夫を捉えている。 (教科書・発言)</p>
深 め る	3 後 半 ・ 4	<p><b>【目標】 表現の工夫について、その効果を考えることができる。</b></p> <p>★①表現の工夫によってどんな感想をもったかを書く。 ②全体で交流する。 ③効果をまとめる。</p> <p>④文体の比較から効果を考える。</p>	<p>□分類した表現の工夫について、効果を考える。</p> <p>□全体で交流し、それぞれの効果をまとめることができる。臨場感や誘われる感じなど、読み手としての印象でまとめる。</p> <p>□筆者の考える絵の価値が、この表現によって伝わるか考える。</p> <p>□敬体と常体で示されたモデル評論文を比較し、効果を知る。自分が書くときにどちらを使うか考える。</p>	<p><b>【読む】</b> 表現の効果について書いている。 (ノート・発言)</p> <p><b>【言イ(カ)】</b> 語感やその使われ方を理解している。 (ノート・発言)</p>
一 組 本 時	5	<p><b>【目標】 くわしい絵の読み方を知り、蛙の絵について書くことができる。</b></p> <p>①くわしく絵と文章を見比べ見方、感じ方、表現の仕方を知る。</p> <p>★②蛙の絵を読み、感じたことを書く。</p> <p>③書いたことを交流する。</p>	<p>□蛙の口から出た線や、目や口の描き方、体の線、表情から読み取れる筋の解釈と表現を読み取る。</p> <p>□三匹の蛙のうち、一匹を選び、絵から読み取ったことを書く。この時に表現の工夫を取り入れて書く。</p> <p>□観点に従って交流することができる。</p>	<p><b>【読む】</b> 線に注目した見方や感じ方、表現の仕方を読み取る。 (発言)</p> <p><b>【書く】</b> ポーズや表情から想像したことを表現の工夫して書いている。 (ノート・発言)</p>

いかす	6	<p><b>【目標】</b> 五感を働かせながら、絵から読み取ったこと、感じたことをワークシートに書き出すことができる。</p> <p>①教科書P142・143の2枚の絵を見て、感じたことを自由に話し合う。</p> <p>②学習課題を設定し、学習の内容に見通しをもつ。</p> <p>★③教科書P143を読み、2枚の絵に対して五感を働かせて感じ取ったことや読み取ったことを、ワークシートに記入する。</p> <p>④ワークシートに書いたことを関連付けたり、くわしく書けそうなところを見つけたりする。</p>	<p>□二つの絵から、疑問などを見つける。</p> <p>□『『鳥獣戯画』を読む。』のように、絵を見て評論文を書くというめあてをつかむ。</p> <p>□読み取ったこと、感じたことの根拠を明らかにする。</p> <p>□『『鳥獣戯画』を読む。』で学習した表現方法を考える。</p> <p>□書いたことを整理し、評論文を書くことに見通しをもつ。</p>	<p><b>【関】</b> 絵画に興味をもち、五感を働かせて、絵から情報を読み取ろうとしている。</p> <p>(ワークシート)</p> <p><b>【書ウ】</b> 自分なりに絵から読み取ったことや感じたことをワークシートにまとめている。</p> <p>(ワークシート)</p>
	7	<p><b>【目標】</b> 表現の効果を考え、「書き出し」に合った表現を選ぶことができる。</p> <p>☆①書いたことを交流する。</p> <p>②モデル作文をもとに、書いたことがどのように表現されているか比べる。</p> <p>★③「書き出し」に書く内容と使いたい表現の工夫を構成メモに表す。</p> <p>☆④③で書いたことを交流する。</p>	<p>□絵から読み取ったことを交流し、友達との共通点、相違点に気付く。</p> <p>□「常体」、「敬体」、「体言止め」、「読み手をひきつける表現」を再確認し、伝えたいことに合わせて表現を選ぶ。</p> <p>□「読み取ったことや感じたことを表す表現」、「見る場所や見る方法を表す表現」を知る。</p> <p>□「書き出し」、「絵から想像したこと」、「作者について・絵の評価」の3段落構成で書くことを確認する。</p> <p>□自分の伝えたいことに合わせて書き出しの内容と使いたい表現を考え、構成メモを書く。</p> <p>□ペアで交流し、「書き出し」の内容と表現が適切であるかをアドバイスし合う。</p>	<p><b>【書ア】</b> 「書き出し」に合った表現を、効果を考えて選んでいる。</p> <p>(ワークシート)</p>
	8	<p><b>【目標】</b> 表現の効果を考え、「絵から想像したこと」、「作者について・絵の評価」に合った表現を選ぶことができる。</p>		<p><b>【書ア】</b> 「絵から想像したこと」、「作者について</p>

	<p>①モデル作文をもとに、「絵から想像したこと」の表現の工夫の効果を話し合う。</p> <p>★②「絵から想像したこと」に書く内容と使いたい表現の工夫を構成メモに表す。</p> <p>③モデル作文をもとに、「作者について・絵の評価」の表現の工夫の効果を話し合う。</p> <p>★④「作者について・絵の評価」に書く内容と使いたい表現の工夫を構成メモに表す。</p> <p>☆⑤④で書いたことを交流する。</p>	<p>□前時に学習した表現の工夫と効果がどのように使われているのかを話し合う。</p> <p>□自分の伝えたいことに合わせて「絵から想像したこと」の内容と使いたい表現を考え、構成メモを書く。</p> <p>□前時に学習した表現の工夫と効果がどのように使われているのかを話し合う。</p> <p>□自分の伝えたいことに合わせて「作者について・絵の評価」の内容と使いたい表現を考え、構成メモを書く。</p> <p>□ペアで交流し、3段落構成の内容のつながりと表現が適切であるかをアドバイスし合う。</p>	<p>て・絵の評価」に合った表現を、効果を考え選んでいる。 (ワークシート)</p>
9	<p>①絵から読み取ったこと、感じたことと、それに用いる表現の工夫を発表し合う。</p> <p>★②絵から読み取ったこと、感じたことを3段落構成で書く。</p> <p>☆③書いた考えを交流する。</p>	<p>□評論文を書く見通しをもつ。</p> <p>□友達との共通点、相違点に気付き、自分が書く時の参考になる表現の工夫を見つける。</p> <p>□絵から読み取ったこと、感じたことに適した表現を用いて、3段落構成で評論文を書く。</p> <p>□表現は適切かをペアでアドバイスし合う。</p>	<p>【書ウ】読み取ったことと感じたことを書き分け、評論文を書いている。 (原稿用紙)</p>
10	<p>☆①書いた文章をグループで発表し合い、感想を伝え合う。</p> <p>②全体で交流する。</p> <p>★③書いた文章を清書する。</p> <p>④単元全体を振り返り、学んだことや今後学習にいかしたいことを交流する。</p>	<p>□友達のものもの見方の良さに気付かせる。</p> <p>□友達のものもの見方の良さを全体で交流することで、友達との共通点、相違点に気付いたり、清書する時の参考としたりする。</p> <p>□友達のものもの見方や表現の良さを取り入れて書く。</p> <p>□学習したことを振り返り、これから学習にいかしていきたいことを発表し合う。</p>	<p>【書カ】書いたものを読み合い、絵の見方の良さや表現の仕方に着目し助言し合うことで、ものもの見方や表現方法を広げている。 (ワークシート)</p>

8 本時の指導【5／10時間 6年1組】

(1) 目標

くわしい絵の読み方を知り、蛙の絵について書くことができる。

(2) 本時の指導にあたって

○書くことにかす要素を明確にした読み取りの仕方  
絵を見る観点を知り、感じ方、表現の仕方を読む。

○単元を通した言語活動につなげる書かせ方

蛙のポーズや表情など観点を示し、どんな気分か感じたことを表現の工夫を用いて書く。

(3) 展開

段階 時間	学 習 活 動	○教師の働きかけ ・期待する児童の反応	支 援
つ か む 5 分	1 筆者の誘いから学習課題をつかむ。	○どこをどうくわしく見ているか読みましょう。それらを参考に、最後には蛙の絵を見て自分の考えを書きましょう。  筆者の絵の見方や感じ方を知り、蛙の絵について書こう。	・これまで見つけてきた工夫の一つである誘いの文章から、くわしい絵の見方を読み取っていくよう方向付けをする。 ・最後の活動を示し、意欲付けをする。
深 め る 3 5 分	2 筆者の観点や感じ方、表現の工夫を知る。 (1) 蛙の絵についての解釈を読む。  (2) うさぎの絵についての解釈を読む。  (3) 表情から読み取れる筋の解釈を読む。	○蛙の絵について書いていますね。筆者は何に着目していますか。 ・口から出ている線 ・目や口の描き方 ○どんなことを想像していますか。 ・激しい気合い ・「ええい」、「ゲロロ」などの気合いの声 ○次は兎です。筆者はどこに着目していますか。 ・背中や右足の線 ○どう感じていますか。 ・絵が止まっていない。 ・動きがある。 ○筆者はこの後、蛙と兎は何だと読んでいますか。 ・仲よしで和気あいあいとした遊びをしていた。 ○なぜ遊びだと思ったのでしょうか。 ・目も口も笑っている。 ・応援している兎たちも笑っていた。	・文章で触れている絵の部分（ポーズや目や口）を注目するように視覚教材を用意する。 ・どこを見てどう感じたかを区別して板書する。  ・蛙が投げ飛ばした時の勢いや、その時の声を想像させ捉えさせる。これが、漫画の吹き出しの原点であることを押さえる。  ・蛙は真剣に戦っているように見えるのに対し兎が笑っていることで遊びだったという解釈のおもしろさを押さえる。

深 め る	3 蛙の絵を読む。 (1) 蛙の絵から気分を考 える。「いったいど んな気分だろう」に 応えて書く。	○三匹の蛙から一匹を選んで、どこからど んな気分と想像できるか、その状況も分 かるように書きましょう。 ○これまでに学習した表現の工夫も使っ てみましょう。	・筆者の問いかけに最終的 に絵を見て書く練習を しようとする。 ・紙板書に書かれた表現の 工夫を参照に書かせる。
	<p>〈具体の評価規準〉 A Bに加え、表現の工夫を複数使って書いている。 B どの蛙について、どこからどう感じたかを表現の工夫を使って書いている。 Bに達しない児童への支援 どの蛙にするかを聞き、どこから何を話しているように感じるかを聞き出し、書く事を 促す。(ワークシートを用意する。)</p>		
	(2) 書いたものを全体で 交流する。友達の考 えを聞き合う。	○友達の見方感じ方を聞き合ひましよう。 どこからどう感じたのかが書かれてい るか、これまでに学習した表現の工夫が 取り入れられているかを聞きましよう。 ・(書き出しを会話から) ・(書き出しを誘うように) ・笑いが止まらない蛙(体言止め)	・早く書き終わった児童同 士が読み合うよう場を 設定する。 ・どの蛙についてどこから どう感じたか3匹につ いて紹介する。 ・特徴的なものを発表させ る。書き出しの工夫、体 言止め、評価の言葉など が使われているもの。 ・文体を確認する。
ま と め る 5 分	4 学習のまとめをする。	○実際に絵を読んで感じたことを書いて みました。どうでしたか。筆者や友達の 見方でも参考になったことはありませんか。 ・目や口の表情から物語を想像して書く事 ができた。 ・会話などが入ると様子が分かりやすい。	・着目した所や感じ方、表 現の工夫について感想 を言わせる。  ・P142, P143の絵 を見て、評論を考えてい くことを告げる。
	5 次時予告		

## 9 板書計画

<p>「いったいどんな気分だろう」 ◎どこを見てどんな気分と思ったか、 状況(気分の理由)</p>	<p>左</p> <p>目と口から ↓笑っている</p>	<p>絵巻</p> <p>投げ飛ばされた兎 背中や右足の線 ↓笑っている</p>	<p>口から線</p> <p>投げ飛ばす蛙 目と口の描き方↓気合の声 「ええい、ゲロロ」</p>	<p>課題</p>	<p>鳥獣戯画を読む</p>	<p>読み手をひきつけるような表現工夫 書き出し 実況風・会話・誘うように 体言止め 評価の言葉</p>
---	----------------------------------	--	--	-----------	----------------	--

8 本時の指導【9/10時間 6年2組】

(1) 目標

表現を工夫して、評論文を書くことができる。

(2) 本時の指導にあたって

○書くことにいかす要素を明確にするこれまでの振り返りの仕方

「深める」の前段で、「常体」、「敬体」、「体言止め」、「読み手を引き付ける表現」、「読み取ったことや感じたことを表す表現」、「見る場所や見る方法を表す表現」を黒板に位置付け、その効果的な使い方を交流させる。

○読み取りをいかした書かせ方

自分が絵から読み取ったこと、感じたことを伝えるために「書き出し」、「絵から想像したこと」、「作者について・絵の評価」の3段落構成で書かせる。その時、本単元での学習や『鳥獣戯画』で読む」で学習した表現の工夫をいかして書かせる。

(3) 展開

段階 時間	学 習 活 動	○教師の働きかけ ・期待する児童の反応	支 援
つ か む  3 分	1 前時の学習活動を想起する。 2 本時の学習課題をつかむ。	○前の時間は評論文を書くための構成メモをつくりましたね。 ○今日の学習は、自分が読み取った表現の工夫を用いて評論文を書く時間です。  表現を工夫して、評論文を書こう。	・表現の工夫を黒板に掲示しておく。 ・3段落構成で書くことを確認する。
深 め る	3 どのような表現の工夫を用いるのかを交流する。  4 評論文を書く。	○絵から読み取ったこと、感じたことをどのような表現を用いて書きますか。 ・リズムが出るように、文章全体を「常体」で書きます。 ・絵の説明のところで、読み手に語りかける「～を見てください。」という問いかけや「～に目を向けると」といった見る場所を表す表現を使って曲線で表された筋肉に目を向けさせ、風神雷神の力強さを説明したいです。 ○評論文を「書き出し」、「絵から想像したこと」、「作者について・絵の評価」の3段落構成で書きましょう。	・表現の効果を発表し合うことで、読み手を意識させる。  ・書く時間を20分とし、400字程度でまとめさせる。
<p>A 文体を統一し、表現の工夫を複数用いながら効果的に記述している。 B 文体を統一し、表現を工夫して記述している。 Bに達しない児童 モデル作文を読み、構成メモと比べて真似ができるところを見つけさせる。</p>			

37分	5 ペアで交流し合う。	<p>○隣同士で、アドバイスしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(3段落構成で書かれているかを見る。)</li> <li>・(常体、敬体がそろっているかを見る。)</li> <li>・(表現の工夫が分かるところに線を引き、効果的に表現されているか見る。)</li> <li>・問いの文があって引き付けられるよ。</li> <li>・文末が同じような表現が多いから○○という表現に書き変えてもいいね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が意図した表現の工夫を説明し、お互い読み合う中で、表現が適切かをアドバイスし合う。</li> <li>・友達の良さを見つけさせる。</li> </ul>
まとめる5分	<p>6 学習のまとめをする。</p> <p>7 振り返る。</p>	<p>○友達のいい表現を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○くんの△△という表現が、風神、雷神が出す激しい音を表していた。</li> <li>・○○さんの△△という表現から、3人がどんな曲を演奏しているのかを想像することができた。</li> </ul> <p>○今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の工夫を用いて自分の考えを書くことができた。</li> <li>・○○さんの絵の見方が私と違っていて、新しい見方を取り入れることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の表現のよさを発表し合う。</li> <li>・友達の発表や評論文を読んで、自分の考えが広がったことや共感できたことなどを発表し合う。</li> </ul>

9 板書計画

この絵、わたしはこう見る

表現を工夫して、評論文を書こう。

◎文章全体 常体 敬体

◎構成

①書き出し

②絵から想像したこと

③作者が伝えたいこと

◎表現の工夫

○体言止め

○読み手を引きつける工夫

- ・問いかける
- ・「」
- ・「会話文

○五感

- ・目
- ・耳(音)
- ・鼻(におい)
- ・口(味)
- ・体(さわる 感覚)

○読み取ったことや感じたことを表す表現

- ・見える
- ・感じる
- ・表れている
- ・聞こえてくる
- ・読み取れる
- ・伝わってくる
- ・受け取れる
- ・印象を受ける

○見る場所や見る方法

- ・―見ると
- ・―目を向けると

10 教材分析表

終わり	中					初め		段落相互の関係	文章構成
⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②		
筆者の主張 (まとめ)	中の結び	作品の読み 説き2	作品の読み 説き1	作品の読み 説き1	作品の読み 説き1	作品の読み 説き1	作品の読み 説き1	作品の読み 説き1	(導入) 絵と読者と の出会い
人類の宝 『鳥獣戯画』	日本文化の特 色としての絵 を使って物語 ること	絵巻物におけ る時間の連続 性	心情 表現する 筆さばき	『鳥獣戯画』 祖としての	漫画や アニメの 祖としての	『鳥獣戯画』	生き生きと躍 動した絵	小見出し	
筆者の最も主張したいことが述べられている。	再び『鳥獣戯画』の絵画史的作用を説明し、筆者の中心である「絵の力を使って物語るのが日本文化の大きな特色」ということを述べている。そして、⑨段落の結論へとつながっていく。	P133とP135で分けて出した絵を再度つなげて出すことで、絵巻物の特長であるストーリー絵画の時間性を説明している。	動きのある絵、表情から和気あいあいとした遊びであるとみる。	ポーズ、目と口の描き方、吹き出しのような線で気合いを表現しているとみる。	つながっている絵を分けて出すことで、読者に時間の経過を納得させ、『鳥獣戯画』が「アニメの祖」でもあるという。	この絵が『鳥獣戯画』であることを始めて述べ、その描き方から「漫画の祖」であるという。	丁寧なP133の絵を読み解く形で解説され、読者にこの絵の魅力を十分に味わわせる。	いきなり、「はっけよい、のこった」という、絵の世界がまるで目の前で展開されているかのような表現で書きだされ、読者を筆者の世界に引きずり込む。	内容